

「慰安婦強制」の新資料

国立公文書館に6点保管

旧日本軍の従軍慰安婦として海外の民間女性を強制連行したこの現代史)が発見した。記述がある法務省の資料六点が国立公文書館(東京)に保管されて

分かった。関東学院大の林博史教授(日本近現代史)が発見した。軍の関与と強制性を認めたと話している。

は含まれていない。林教授は「当時の政府調査は不十分だったと言わざるを得ない」と話している。

いたことが二十一日、

なつた政府調査資料に

資料六点は、戦後に当時の中国国民政府と

オランダ政府が実施した計六件のBC級戦犯法廷の起訴状や判決文などの裁判資料。九九年以降に法務省から公文書館に移管されていた。六つの事件はいずれも、当時の「法務大臣官房司法法制調査部」が戦犯法廷を一覧にまとめた「裁判概見表」に掲載されている。

うち、陸軍中將が強姦や婦女誘拐に問われた「南京12号事件」の起訴状は「娘を暴力をもって捜し出し肉体的慰安の具に供した」と指摘している。海軍大尉ら十三人が強制売春などに問われたオランダ政府によるインドネシアの「ボンチャナック13号事件」の判決文は「多数の婦女が乱暴な手段にて脅迫され強

制させられた」として

いる。

六点のうち、南京12号事件は有罪となったものの中將が「別の師団によるもの」と否認していた。「上海136号事件」は被告を取

り違えて無罪となっており、起訴状の内容が事実かどうかには疑問も残る。

林教授は「内容は今後精査する必要がある」と話す一方で「法務省がこれらの資料を政府調査に提出しなかったのは不可解。河野談話以降もさまざまな資料が見つかっており、それらを踏まえて新たな政府見解を出すべきだ」と指摘している。

「慰安婦強制」で新資料 6 点、河野談話に含まれず

2013/11/21 17:02 【共同通信】

<http://www.47news.jp/CN/201311/CN2013112101001602.html>

旧日本軍の従軍慰安婦として海外の民間女性を強制連行したとの記述がある法務省の資料 6 点が国立公文書館（東京）に保管されていたことが 21 日、分かった。

関東学院大の林博史教授（日本近現代史）が発見した。軍の関与と強制性を認めた河野官房長官談話（1993年）の基となった政府調査資料には含まれていない。

林教授は「当時の政府調査は不十分だったと言わざるを得ない」と話している。

資料 6 点は、戦後に当時の中国国民政府とオランダ政府が実施した計 6 件の B C 級戦犯法廷の起訴状や判決文などの裁判資料。